

トピックス できごとやニュース

○LINEグループ大流行

コロナ禍で会合開催が難しい昨今、カレッジの講座担当者の間では専らLINEで意見交換。WL編集部もメンバー四人でLINEグループを作り、連絡や相談をしながら発行しています。講座関係者（スタッフ、担当理事 計9名）のグループはコロナ騒ぎで緊急に講座の休止／再開など協議するために結成され、名前は「NC緊急K」…「K」は「講座」の頭文字とは芸の無い話ですね。

ひと 今回は私たち大阪シニア自然カレッジの理事長。お気持ち伺いました

新谷俊人さん（自然カレッジ 理事長 最寄駅は河内長野）



私たちの住む南大阪の豊かな自然を観察・勉強しようと、リタイアした仲間で自然カレッジを立ち上げて、いつの間にか15年。テーマや講師を一から手探りで探すことからスタートしましたので自然カレッジは「我が子」のように感じます。代々の講座生が修了後、理事・講座スタッフ・部会世話役となられ、現在のカレッジを運営されており、とても感謝しています。入講式で15期生の皆様にお会いするのを楽しみにしていますが、コロナ感染症のため全国に非常事態が宣言される状況となり、講座を開始できずにいます。一日も早い収束を願うばかりです。町の風情も様変わりとなり今後が気になりますが、お互いコロナウィルスには十分注意して、開講日にはお元気な皆様にお会いできるよう期待しています。

編集部 頼りになるリーダー。但し、話が長い、喋り過ぎとの声も。ご本人は「自宅では無口です」と仰るが、それを信じる人は少ない。

巣ごもり便利 Stay home! 今回はヒロさん他からのお便り

庭の花々咲きました!

コロナで気が重いところに今日は朝から雨。憂うつですね。毎日、家の周りブラブラ、庭の草むしり&お散歩ざんまい。チョット足を延ばして小吹台から河内長野・寺が池までウォーキングで気分転換などしております。庭のお花も今年は例年より早く咲いています。皆さんのお宅は いかがですか。 ヒロでした



ラクウショウ (ヌマスギ) 並木

新緑の光明池緑地 広々しててコロナの心配なく歩けます! どこも新緑がまぶしいこの頃、特にお勧めは広大な光明池緑地。光明池駅から緑道伝いに歩いて行けますが、車利用も便利。最寄りの無料駐車場（和泉市コミュニティ体育館駐車場 or 光明池緑地運動場駐車場）は 施設休館中の現在、いつも空いています。水面に映える新緑に加え、私のお気に入りには池南東部のラクウショウ並木。今まさに新緑が芽吹きの時。自然に手が天に向かって伸びます。おにぎり・飲み物持参で一人ピクニックに最適ですよ。（けん）

桜の花が散り終わると、我が家の庭にはあちこちに色鮮やかな**サクラソウ**が咲き始めます。

野生のものは準絶滅危惧種で、大阪府内で見ることができない貴重種ですが、なぜか**大阪府の花**になっています。理由を調べてみると、サクラソウ属の原生種である**クリンソウ**が金剛山に自生していることから選ばれたようです。

よく似た花に**西洋サクラソウ**（プリムラ・マラコイデス）があります。こちらは中国原産でイギリスで改良された園芸種。3月の下旬頃から咲き始め、花の期間も長く、今、庭では両者が咲き競っています。

その違いは両者写った写真を見て頂くと、**サクラソウは一株に一花茎で、その先端一個所だけ散形状に花を付け花冠も大きい**です。違いわかるかな？



### ウミホタル観察

夕方集合の夜間講座です

会場；淡輪さとうみ公園

神秘の光を放つウミホタルをご存知でしょうか。  
昼間は砂の中、夜になると行動する**夜行性のため観察は夜に**。

エサを入れた仕掛けを海中に投げ待つこと20分

再び海に放つと星雲のように光る



引き上げると発光する



引き上げて、刺激を与えるとキラキラ青紫色に発光!!  
この瞬間、あちこちから歓声が闇夜に広がります。  
初めて見る方も多く暗闇に光る様子は神秘的で感動です。  
ぜひ実際に体感していただきたい講座です。

(写真は南あわじ市HPから)

今年の4月前半は、暖かいと思えば寒いという気候でしたが、季節はきちんと進んでいるようです。里山も畑も芽吹き季節、まさに「山笑う」です。



冬には枯れたようなカキの木にも、みずみずしい若葉が芽吹きました。



畑は野の草が一斉に茂り始めました。周りの里山の樹々にも若葉が芽吹いています。



桜の仲間ウワミズザクラ



いい色のムラサキケマン

この時期、茂り始めた野草の草刈りをしながら、ちょっと考えます



クサイチゴは畑には邪魔！  
けど実は食べられるよ。



ノアザミはきれいだね。刈らないで残すかな。



葉が優しいヤワゲフウロ

編集部

里山はみどり一色。ってことは草もボウボウ？ 雑草も自然そのものですね。

ワンダーワールド

カレッジの部会の中でもユニークな「いのちの営み探検部会」の活動／選

一夜限り／妖艶な  
カラスウリの花



秋の散歩やハイキング等で目を惹く、オレンジ色の実のカラスウリ。でも花はあまり見かけない。気付いてもすでに咲き終わってしぼんだものばかり。が、実際に花を見る機会に恵まれると、その美しさ、妖艶さに驚かされます。○カラスウリはウリ科、つる性の多年草で雌雄異株。○花は夏（7月～8月）の夕方から夜にかけて咲き、5裂した花弁のふちがレースのように細かく裂けた状態で直径10cmほど。翌朝にはしぼんでしまう一日花。○花粉の媒介は夜行性のスズメガの仲間。○カラスウリの名はカラスが食べるから（カラスがこの実を食べるとは思えないが）とか、スズメウリより実が大きいから。というような説があります。（K.I）

【写真は時刻と雄花の開花状態】



18：38 蕾が膨らんで

18：53 少し開いて

19：02 ほぐれてきて

19：12 レースが伸びて満開に

編集部より

竹中光子 中務佐代子 上溝敏子 飯田憲三 kziid@gmail.com 090-6665-3750

感想・巣ごもりレポート・質問などお待ちしております！

編集部にはお便りが一番の励みです。

あっ、あっ、なんだ、これは――。あ然、茫然とした。芽を出したばかりのジャガイモが掘り出されて、すべて食べられているではないか。1本も残っていない。前日までは被害はなかった。たった1日の仕業で、キタアカリ3キロ分がパーである。食い散らかされたイモの皮の部分をよく見ると、くちばしの形がくっきり。**犯人はカラスだ。**

周囲を見ると、他にも何カ所かやられている。小生を含め、被害者3人が顔をそろえ、急ぎよ、烏首ならぬ「鳩首会談」。喜寿の男性は「ここで25年、畑をやっているが、ジャガイモが食われたのは初めてや」。80歳のおばあさんは「ほんまや。カラスもよっぽど食いもん、困ってるんやわ」。こちらは「につっき奴、とっ捕まえて、さらし首や」。悲憤慷慨、切齒扼腕するものの、どうにもならない。

ここでは昨年、トウモロコシが被害に遭い、以前はえんどう豆がやられた。いずれも、実が熟れて収穫直前。そろそろ防鳥ネットを張ろうかという時である。「もう、美味しい頃や」と、どうしてカラスがわかるのか、不思議で仕方がない。近年、家庭のごみが、すべてネットの覆われて出されるようになり、**餌が極端に減っているのが、背景**にあるようだ。

この市民農園は清教学園と河合寺の間にあり、金剛山行きのバスの「河合寺」バス停前である。約50区画があり、小生は15年くらい前から、20坪の区画を2つ借りている。**畑は雑草との闘い**。鍬を振り上げて、渾身の力で、畑を打つ。それが続くと腰痛になる。悲鳴を上げて、6年前にミニ耕運機を買った。付属品を入れて11万円。動力はガスボンベだが、馬力はガソリン並み。おかげで耕すのは楽になった。問題は、元が取れないことである。収穫は例年、だいたい貧弱。原価計算すると、市販の10倍の値段になる。「**えらい高い野菜ねえ**」。家人の肉肉が絶えない。



河合寺前の市民農園

この一番のメリットは水の心配をしなくていいことだ。小川があって、きれいな水が流れる。**6月ごろ、蛍が舞う**。群舞とはいかないものの、一人で蛍狩りができる。冬から春は、チュウサギやヒドリガモ、さらにオシドリまでやってきて、目を楽しませてくれる。先日はカワウも来ていた。「楽園」である。

すぐ横の清教学園のテニスコートから、生徒たちの若々しい声が響いてくる。青春を謳歌している姿が、古稀の身には何ともうらやましい。反対側の河合寺は「勅願の寺」で、南朝にゆかりがあるという。その一帯の山肌は近年「**あじさい園**」として整備されており、女性グループに人気がある。カレッジの皆さんもぜひ一度。

畑仕事はコロナの「3密」（密集、密接、密閉）とは無縁。マスクなしで、周りに気兼ねなく楽しめる。いいことだらけだ。小生を除くジャガイモの被害者は、また種芋を買って、植え直したとか。こちらは諦めて、黒豆を植え付けた。気を取り直していると、向こうの樹上でカラスが、こちらを見ている。「こらっ！」と大声を上げて、睨んだら、「ガアアア」と嗤った。敵が一枚、上である。（渡口 行雄）



女性に人気のアジサイ園